一人ひとりの、あかりになる。

ふと見れば隣にいてくれる、

そんな安心とあたたかさを。

MEDICAL SYSTEM NETWORK GROUP

なの花薬局

株式会社メディカルシステムネットワーク

本　　社／〒060-0010 北海道札幌市中央区北10条西24丁目3番地 AKKビル TEL:011-612-1069
仙台事務所／〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-11-1 オルタス仙台ビル2F TEL:022-778-1188
東京事務所／〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番18号 ヒューリック虎ノ門ビル8F TEL:03-5532-1323
名古屋事務所／〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目23番20号 HF桜通ビルディング5F
大阪事務所／〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1丁目5番3号 千里朝日阪急ビル13F TEL:06-6873-0002
福岡事務所／〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4丁目17番22号 TEL:092-962-9200



なの花薬局 | RECRUITING CONCEPT BOOK



あたたかなあかりがともる家を見た時の、安心感のように。

なの花薬局は、地域の皆様を一番ちかくで見守り、

医療人として、人として、真に頼れる存在でありたい。

なの花薬局の理念

良質な医療インフラを創造し

生涯を見守る「まちのあかり」として

健やかな暮らしに貢献します

地域住民の健康を支えるグループとして、医療と生活の基盤を創造すること。

人々の暮らしと心に寄り添い、生きる喜びを支える存在として、いつもそこにいること。

住み慣れた場所で生涯安心して暮らせる「まちづくり」の一翼を担うこと。

すべては、地域の笑顔と未来のために。



なの花薬局 石見大田店

方言も、文化も、街並みも。

私たちは「この地域の一員である」ことを大事にしたい。



ただいま
おかえり

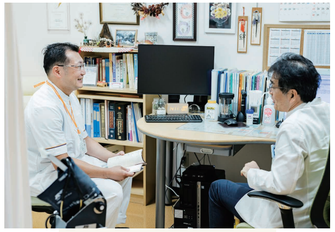
あたりまえの日常、
その喜びを
届けるために。

地方であっても、質の高い薬物治療を。
薬局長の提案から、
医師を軸にした多職種連携が活発に。



島根県のほぼ中央に位置する大田市。世界遺産「石見銀山」を有し、日本海と中国山脈に囲まれた人口3万2千人ほどの市の中心部に、なの花薬局石見大田店はある。高齢化と過疎化が著しい速度で進むこの地域で、大田圏唯一の「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として地域住民を支えている。
地方であっても質の高い薬物治療を提供したい。その想いから、土屋薬局長自らが行動を起こし、患者さま対応と並行し多職種と連携することに力を入れている。そうした行動力の源は「この地域の一員である」という誇り。島根県出身ではなくても、この地域を知り、方言や文化を理解しようとする姿勢と、想いを組んだサポートが、患者さまとの距離を縮めている。

処方元の医師と
週次でカンファレンス





門前のクリニックは内科・神経内科・心療内科・漢方内科で、専門はパーキンソン病と認知症。県内屈指の漢方医でもある。医師との連携は土屋薬局長からの提案だった。毎週金曜、診療終了後の診察室でカンファレンスを行う。一週間の出来事や双方の依頼事を共有、トレーシングレポート持参で患者さまの対応を相談させていただく。片道40分をかけ、山間部などの医療過疎地へ往診同行することも。

地域の人みんなの
「かかりつけ」という意識で





病気や治療のことだけでなく、患者さまの生活環境や家族構成などをトータルに診ていくのが当たり前の地方の環境。石見大田店では「地域の人みんなのかかりつけ」という意識で患者さまをサポートしている。門前以外の医療機関から来局される患者さまも多く、薬剤師との会話を楽しみにしている方も。門前のクリニックと共催で「健康フェア」を実施、地域の健康増進にも取り組む。

食支援研究会、医療過疎地対策
多職種と積極的に連携





石見大田店は、高齢者の「食」や在宅生活を支えるために、健康寿命の延伸を目的とした「大田食支援研究会」に所属。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、ケアマネジャーなどの多職種が集まり、月1回症例検証を行う。また、「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として保健所や市役所からの依頼や相談を受け、医療過疎地対策や緊急時対策など、地域の健康支援体制の一翼を担う。



普段からの
研修や勉強が
患者さまの治療に
役立つ喜び。

なの花薬局 南茨木駅前店　薬局長
向田 周平　Shuhei Mukoda
2022年入社

患者さまの治療に深く関わることができる在宅医療に携わりたいと思い、在宅医療のキャリアが業界先駆の、なの花薬局を志望しました。「自宅通勤勤務」を選択し、住み慣れた大阪府内で3店舗を経験。最初の店舗では調剤業務を中心に業務の流れを学び、その後、監査・投薬を担当。同時期には在宅訪問を担当し、ご自宅で適切な服用ができているのか、生活環境や身体状況を丁寧に聞き取りながら多角的な視点を持って患者さまと向き合う力を養いました。2店舗目では、外来がん化学療法の処方せんを多く扱う店舗に配属。1年目とは全く異なる薬剤の内容に苦戦しましたが、先輩に指導いただきながら必要なスキルを身につけました。以前、同効薬が重複処方され、疑義照会により処方削除になった際、患者さまから「あなたが気づいてくれて助かったわ」と感謝の言葉をいただきました。普段の研修や勉強が実際の業務に役立ち嬉しく思います。現在、3店舗目で薬局長を務めています。外来業務や在宅訪問に加えて医薬品の在庫管理、職員のマネジメントや店舗運営など、やりがいも大きくなりました。駅直結型の店舗ですが、投薬時に「髪切った？」とお声をかけていただいた時、地域の患者さまに顔を覚えてもらえたことが嬉しかったですね。今は健康イベントに積極的に参加するなど、地域の方が気軽に立ち寄れる店舗を目指しています。



配属店舗で基本を学ぶ

最初の配属店舗は、なの花薬局ミューズたかつき店。当時は初めて見る薬剤ばかりで、帰宅後も薬効、副作用、飲み方などについて勉強する日々でした。



入社半年・幅広い診療科目を経験

処方監査・投薬を担当。門前には整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、レディースクリニック、さらに総合病院の処方せんまで幅広く経験。また、薬剤監査システムのメンテナンスも担当しました。



地域の健康イベントに参加

地域の方々に「N-system」という生活習慣病予防を目的とした万歩計をご紹介したり、運動や生活習慣のアドバイスを実施。この時期から在宅訪問の担当となり、多職種連携の重要性を学びました。



2年目・専門性を高める

柴原店に配属。外来がん化学療法の患者さまが多い店舗で、処方理由を理解しながら薬剤のことを覚える毎日。また、医療安全ミーティング担当となり、ヒヤリハット事例などについて議論し、報告書を作成していました。



3年目・南茨木駅前店の薬局長に

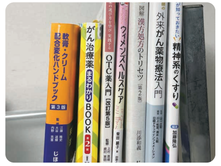
医薬品管理、職員のマネジメント、店舗運営、医療機関との連携など、担う責任の大きさの分だけ、やりがいも大きなものに。隣にある「なの花ドラッグストア」と協力し地域に向けた健康相談も実施。



心がけていること

患者さまの治療への不安を取り除けるよう、お薬の飲み方や副作用への理解度を確認しながら服薬指導します。話すスピードや目線を合わせ、話しやすい関係性をつくるよう心がけています。

TOPICS



研修や自宅で知識をアップデート

1年目はCKD（慢性腎臓病）研修、2年目はDM（糖尿病）研修、そのほか1年目と3年目が合同で行う「つぼみ塾」などに参加し日々自己研鑽。研修認定薬剤師の資格を取得しました。



地域医療に貢献したい。
患者さまの笑顔や
感謝の言葉が、
私自身の“心の栄養”に。

なの花薬局 豊中上野坂店　医療事務スタッフ
尾関 梨花　Rika Ozeki
2022年入社

家族や身内が大病し、中学生の頃から病院や薬局、医療人を身近に感じてきました。そのため医療に関わる仕事を通して地域医療に貢献したいと考えることは、私にとって自然なことでした。医療事務の中でも薬局業務に特化したこの仕事は、医薬品や調剤報酬などの専門的な知識が身につくだけではなく、薬局という地域の誰もが利用する医療機関で患者さまに貢献できることが魅力だと感じています。来局された患者さまに最初にご対応させていただくため、店舗の第一印象を損ねないよう、また、体調のすぐれない中でも気持ちよくご利用いただけるよう、安心できる笑顔と柔らかい話し方を心がけています。患者さまが笑顔で挨拶を返してくださったり、感謝の言葉をかけていただいたり、そうした日々の出来事から私自身も“心の栄養”をいただいています。また、医療事務はワークライフバランスを保ちやすく、仕事とプライベートの両立が可能です。私は社会人になってからピアノを習い始めました。連休を取得するなど柔軟な働き方も可能で、趣味の旅行やコンサートも楽しんでいます。
私たち医療事務は、患者さまからお聞きした内容を薬剤師に正確に伝えるなど橋渡しすることも大事な役目。患者さまとのコミュニケーションを大切にしながら、薬局運営をしっかりとサポートできるよう店舗内の環境づくりにも取り組んでいきたいです。



受付・会計業務

受付で最初に応対する医療事務は、薬局の“顔”となる大切なポジション。患者さまから処方せんや保険証、おくすり手帳を受け取り、処方せんの有効期限を確認します。保険証の情報はマイナ保険証で確認することも。薬代を受け取り会計業務も担当します。



処方レセコン入力業務

受け取った処方せん内容を、レセプトコンピュータに入力。薬剤ごとに規格があり、処方せんの内容を漏れなく正確に入力することやチェック作業も入念に行います。また、月次で行う調剤報酬明細書（レセプト）の作成・請求も重要な業務です。



ピッキング・一包化補助

2019年より医療事務（調剤補助員）は、処方せんに記された薬剤を棚から取り出すピッキングや一包化の補助作業が可能になりました。薬剤師の指示のもと、医薬品を取り揃えたり一包化の錠数を確認する作業は、正確性を求められる業務です。



待合室でのヒアリング

患者さまが問診票を記入される際に、不明点をサポートしたり、待合室でヒアリングを行うことも。薬の副作用やアレルギーの有無、薬剤師がより正確に症状を把握するためのフォロー業務。チームワークやコミュニケーション能力も大切です。



薬剤師への報告・相談

患者さまが薬剤師に伝え忘れたことや、患者さまの対応で気づいた点などを、薬剤師に報告・相談。また、医薬品の期限管理や納品時の検品・入庫も行い、薬剤師に必要事項を報告します。薬剤師が円滑に対物・対人業務できるようサポートします。



OTCの管理・陳列など

店内で販売しているOTC医薬品・医療用品・健康食品などの商品管理も担当します。患者さまがお薬の待ち時間に興味を持っていただけるよう陳列を工夫したり、品出しをしたり、処方せんがなくてもご来局・ご購入しやすいよう接客業務も行います。

なの花薬局 東伊興店

住み慣れた地域で自分らしく。
医療人として、人として、暮らしと人生に寄り添う存在へ。



顔を見るのが楽しみだよ

頼れる、安心できる。
もう一人の
家族のように。

在宅訪問のエキスパート店舗。
患者さま視点に立った「薬のプロ」としての対応が、医師からの信頼を得る。



東京都足立区。都内5位の人口で店舗の200m先は埼玉県という立地にある、なの花薬局東伊興店。眼科・内科・整形外科・泌尿器科・循環器内科などの外来処方せんのほか、店舗から離れた約10の訪問診療を行う医療機関から応需し、東伊興店が担当する在宅訪問件数は、個人宅60件、施設は340件。その多くは医師や多職種からの紹介によるもので、新規クリニックからの飛び込み依頼も少なくない。この日も医師が東伊興店を訪れ、在宅訪問を開始する患者さまの手続や情報共有が店舗の一角で行われていた。相良薬局長は「薬剤のことを任せていただける医療機関が多い」と話す。その理由は、往診同行時や電話など医師からの問い合わせに対して迅速かつ正確に答えること。薬剤に関する提案を行うこと。「薬のプロ」としての対応が、医師や多職種から信頼を得ている。

「Less is More」。負担軽減につながる処方提案を考え抜く





相良薬局長が大切にするのは「患者さまの話を傾聴する」こと。残薬の話から在宅訪問に発展するケースもあり、生活環境を含めた患者さまへの細やかな聞き取りと多職種との情報共有を密にし、「Less is More」の精神でポリファーマシーの観点から減薬提案や服用時点を減らすなどの処方提案を考え抜く。患者さま・介護者・与薬者すべての負担軽減を見据えた皆がWin-Winになる提案が、選ばれる薬局・薬剤師につながっている。

お薬が必要な理由を丁寧に。伝え方にも工夫を





予定通りに服用できていない場合、純粋に飲み忘れただけなのか、飲みたくないと思っているのか、患者さまへの聞き取りを丁寧に行う。例えば降圧剤の場合は、「今、血圧はどのくらいですか？きちんと飲んでいるから安定していますね」など、何のためにお薬を飲むのかを理解していただく工夫も大切だ。また、地域ケア会議やクラウドツールで多職種と情報交換を行い、患者さま自身が治療に前向きになるようチーム医療で支えている。

患者さまとより近い距離感で希望される看取りを叶えたい





予後を宣告された終末期の高齢の男性患者さまを担当。疼痛緩和のための麻薬が処方され、ご夫婦二人暮らしのご自宅を訪問すると、疼痛のあまり男性がベッドから落ち、奥様の力では起こすことができず困っているところだった。男性をベッドに抱き上げ、経皮吸収型麻薬を貼って差し上げた。翌朝、奥様から苦しむことなく息を引き取ったと、お礼の電話をいただいた。残された時間に何ができるのか、希望される看取りに最善を尽くす。



患者さまと向き合い、ご本人が納得する処方提案を実現。

なの花薬局 東伊興店
菊本 裕子 Yuko Kikumoto
2023年入社

大学の実習で在宅医療に興味を持ち、在宅医療に長年の実績がある、なの花薬局を志望しました。合同説明会で人事部や薬剤師の先輩方の雰囲気が柔らかく、また、薬局も明るく穏やかな印象で入社を決めました。入社後、約1ヵ月間の研修を経て、店舗に配属。1店舗目は在宅訪問の多い店舗でしたが、最初は調剤業務から開始。門前の医療機関には多くの診療科があり、基本的な薬剤を幅広く経験することができました。入社半年後には監査・投薬担当となり、疑義照会になるケースでは、先輩薬剤師から現場の生きた知識を学びました。入社8ヵ月目で東伊興店に配属、現在は外来の調剤と監査、在宅訪問担当として往診同行や施設への配薬、個人の在宅患者さまを週1日担当しています。担当する在宅の患者さまに排便コントロールに悩む方がいました。下剤を処方通りに服用すると下痢をしてしまうため、患者さまは一包化した下剤をバラバラにし、自己調節で服用している状況でした。そこで、患者さまの排便記録や生活環境などをじっくりと聞き、医師に報告・相談しながら、適した下剤の調剤・服用方法が見つかった時は嬉しかったです。何よりも患者さまが納得して服用してくださり排便トラブルも改善、お役に立てたことを実感できました。今後も日々勉強を重ね、処方提案を積極的にできる薬剤師を目指していきたいです。



配属店舗が決まった頃の同期会！

オンライン研修を経て、なの花薬局梅島店に配属。調剤業務を通して、よく出る薬剤や用法を学びました。当初は先発名(先発医薬品)が覚えられず大苦戦。機器操作など、覚えることに精一杯の毎日でした。



入社半年・疑義に気づける知識と経験

監査・投薬を担当するようになり、処方内容以外に疑義照会が必要になるケースが多いことを知りました。薬学的疑義照会には豊富な知識が求められます。先輩薬剤師に頼りながら経験を重ねました。



入社8ヵ月・東伊興店に配属

薬局長を中心に先輩の皆さんに教えていただきながら在宅訪問を開始。2ヵ月後には40人程度の施設の担当になりました。また、「地域薬局」として店舗では健康イベントも定期的に開催しています。



薬局長や先輩から学ぶこと

教えていただく知識には薬剤のことだけではなく、門前の医師の考え方や処方意図を学べます。知識の幅が広がると投薬の際、患者さまへのアドバイスの“引き出し”が増え、成長を実感できます。



2年目・OJTで新人教育を担当

OJTトレーナーになりました。外来、在宅訪問、新人教育をいかに円滑に行うか、業務の効率化を試行錯誤中です。さらに、在宅訪問のやりがいを感じ始めています。皆さんにご指導いただきながら自己研鑽に励んでいるところです！



3年目・多職種との連携強化

担当患者さまの在宅医療をより良い形で継続できるよう、サービス担当者会議への参加をはじめ、医師・ケアマネジャー・ヘルパー・ショートステイ先の施設職員など、多職種との連携に主体的に取り組みました。

TOPICS 1



東伊興店がCMのロケ地に!

なの花薬局のCM（動画）の最後に登場する「一人ひとりの、あかりになる。」店舗は、東伊興店です。俳優の福地桃子さんが店舗前に!撮影の舞台裏を知る貴重な体験でした。

TOPICS 2



趣味はディズニーリゾート!

子どもの頃から大好きで、社会人になり忙しい日々でも“夢と魔法の国”で元気をもらっています!プライベートでは友人と北海道旅行などを楽しんでいます!

FEATURED PHARMACIST　エリアブロック長インタビュー



患者さまの
生活環境や想いを
汲みながら
信頼を重ねる在宅に。

ブロック長
（なの花薬局 新百合ヶ丘店）
荒川 夏織 Kaori Arakawa
2017年入社

学生時代から在宅医療に精通した薬剤師になりたいという思いがあり、黎明期から在宅医療に力を入れている、なの花薬局への入社を決めました。入社後、希望通り在宅訪問の多い店舗に配属となり、求められるスキルを学びました。約6年間同店舗に所属し、薬局長に就任。新百合ヶ丘店、鶴川大通り店の薬局長を経て、現在はエリアブロック長として勤務しています。薬局長の頃は、店舗職員のマネジメントや店舗運営に力を入れていましたが、現在はブロック長として、ブロック内のシフト調整をはじめ、マイナ保険証の利用率向上施策や若手薬剤師の学術研究の補佐、さらに、在宅セクションの研修運営チームとして新人の在宅研修等の企画運営を担当しています。ブロック全体や若手薬剤師の教育に携わることができ、新たなやりがいを感じています。かつて新人だった私に在宅経験の機会を与え、社内の在宅委員会に推薦してくれた上司のように、これまで私自身が積み重ねてきた店舗や在宅訪問での経験を後輩薬剤師の育成に役立てていきたいです。また、ブロック長として会社全体に関わる事柄をみていく難しさを感じる一方で、会社を動かしていく役職であることにも魅力を感じています。一般薬剤師・薬局長として経験した現場目線を忘れずに、会社全体のことを考えられる、視野の広い薬剤師を目指していきたいです。

CAREER PATH　私のキャリアパス



入社直後・北海道での新人研修

当時は集合型研修だったため、北海道札幌市にある宿泊研修施設で記念撮影。全国に広がる同期と親睦を深めながら医療人としてのマインドや社会人のマナーを学びました。



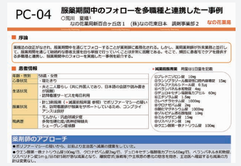
1年目・武蔵新城店

外来対応、薬剤の在庫管理などの業務と並行し、薬局長や先輩薬剤師が担当する高齢者施設・個人宅の在宅訪問を十数件ほど経験。間近でスキルを学びました。



2年目・在宅委員会に加入

当時の薬局長に掛け合い、社内の在宅委員会に推薦してもらいました。本来は4年目以降から加入できる委員会。若手のチャレンジや積極性を評価してくれる社風に感謝しています。



3年目・学会発表

服薬期間中のフォローが義務化される前に、コミュニケーション学会で在宅チームにて症例を発表。多職種との連携は在宅訪問に不可欠であり、他の薬剤師の関心も高く、様々な質問を受けました。



3〜4年目・地域の健康イベント

「健康サポート薬局」認定の取り組みとして地域包括支援センターからの依頼を受け、健康イベントを企画・開催。地域の皆様にお薬の飲み合わせや、おくすり手帳の必要性などを講演しました。



7年目・社内臨床研究発表会

3年間をかけて臨床研究を行い、学会で発表ができるように教育する「CReST（クレスト）2チーム」に所属し、2年目薬剤師の学術研究をサポート。3年目で研究発表会を行います。



8年目・子ども薬剤師体験

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、地域の健康イベントが再開し、なの花薬局の「子ども薬剤師体験」は大盛況！お薬相談や栄養相談にも多くの人にお立ち寄りいただきました。

TOPICS



同期の絆！何でも話せる仲です！

同期とは仲がよく、産休・育休を取得中の仲間もいます。他店舗の同期の薬局長は、今も毎日連絡を取り合うほど。何でも話せる同期がいるのは心強いです。

なの花薬局 北大店

地域薬局は、ゲートキーパー。
専門性を深化させ、病院と患者さまをつなぐ架け橋に。



あなたに話してよかった

不安を和らげ、前向きな気持ちになれるように。

外来がん患者さまの体調変化を細やかに聞き取る。受診と受診の間を支えるのは、薬局薬剤師だ。



北海道札幌市。臨床研究中核病院として先進的な医療を提供する全国屈指の医療施設の一つ、北海道大学病院。その敷地内薬局として機能するのが、なの花薬局北大店だ。来局患者さまの約4割が、がん患者である。他にも、北大病院でしか受けられない治療を求める患者さまが大半を占めており、重篤かつ特殊な疾患の処方内容に接するため、高度な知識と経験が求められる。調剤室には医薬品自動入庫払出システム(調剤ロボット)を導入し、調剤の効率化を図ることで薬剤師が患者さまと直接かかわる時間を確保でき、がん領域や循環器領域など、薬剤師それぞれの職能を活かしながら、患者さまとじっくりと向き合える薬局づくりを進めている。宮川薬局長をはじめとする薬剤師たちには、一つの想いがある。「地域薬局は、日常生活の近くで患者さまを支えるゲートキーパーだ」。疾患と治療に向き合う患者さまと二人三脚で進む北大店の挑戦は続く。

1本の電話が、患者さまを守る体調変化や不安を丁寧に





外来でがん化学療法を受ける患者さまが増える昨今。抗がん剤治療は中断しないことが重要であり、副作用の発現をコントロールすることが薬剤師の大きな役目の一つとなる。店舗には患者さまのプライバシーに配慮された個室設備もあり、問診を丁寧に行い、支持療法薬の使用状況などを医療機関に共有する。特に、次の受診までの日常生活における体調変化の聞き取りが重要だ。1本の電話やLINEが命を守ることにつながる。

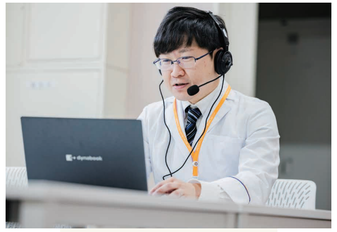
医療機関と薬局、双方が使いやすいフォーマット作り





トレーシングレポートは、独自のフォーマットを作成。患者さまからヒアリングした服薬状況や副作用の有無は、抗がん剤の減量や支持療法薬の増減・変更に活かされることもあるため、医師が治療計画に必要な薬剤情報を端的に把握できるように工夫している。また、誰もが使いやすいフォーマットにすることで、がん領域を専門としない薬剤師も一定のレベルが身につくようにし、薬学ケアの質の向上に取り組んでいる。

地域の核となる薬局として、地方へつなぐ





急性期治療後、症状が落ち着いた患者さまは居住地の医療機関に戻るケースも多い。地域薬局として患者さまの近くでサポートしたいという想いから、北大店では、各地のなの花薬局や他薬局と連携するなど、地域の核となる薬局としての機能も果たす。地元に戻る患者さまからは「病院から少し離れても、なの花薬局にしたい」と嬉しい言葉をいただくことも。各地のレベル向上を図るため、オンラインによる「がん勉強会」も実施。



専門性を磨く。
いつもの日常生活を
送る喜びを
届けたいから。

ブロック長
（なの花薬局 北大店）
宮川 丈史 Takeshi Miyakawa
2013年入社

私の就職活動当時は、薬剤師の職能拡大が推進され始めた頃で、薬局業界の現状を変えたいという気持ちと、なの花薬局の「地域薬局」という考え方が好きで、この会社で活躍してみたいと思い志望しました。入社後は札幌、小樽、千歳などで5店舗を経験、4年目に薬局長となり、薬局長として3店舗経験をしました。現在は北大店のあるエリアのブロック長として働いています。北海道大学病院の敷地内薬局である北大店は、高度な専門知識と経験が求められる店舗。患者さまから「この薬局なら安心できる。この薬剤師から薬の説明を聞きたい」と思っていただける薬局づくりを目指しています。私を含め、北大店は外来がん治療認定薬剤師の資格を持つ薬剤師が常勤しており、薬局内で独自に症例検討を行うほか、社内では「がん勉強会」を実施し、どの店舗の薬剤師も一定の知識が得られるよう勉強の機会を設けています。今はエリアブロック長となり、会社規模で薬局の在り方を考えたり、エリア職員のマネジメントを行う中で、薬剤師として日々の現場業務で感じている薬局薬剤師の職能の拡大を、より広い視点で発展させていきたいという思いも強くなりました。患者さまは様々な不安を抱えていらっしゃいます。生活環境や心情に寄り添い、病気だけでなく“人を診る”ことを大切にしたい。そして、専門性を磨くことで生まれる自信を込めた想いが、患者さまの安心と日常生活を過ごす喜びにつながると信じています。



1年目・なの花薬局札幌北3条店

新人研修後、札幌市中心部にある札幌北3条店に配属。良い先輩がたくさんいる明るく楽しい店舗でした。写真は、当時、自己紹介用に撮ったもの。



2〜3年目・フォローアップ研修

2年目は南小樽店、3年目は千歳店に配属。小樽では高齢者や地域に根ざした薬局づくりを、医療モール型の千歳店では患者さまとのかかわり方や薬局運営について学びました。



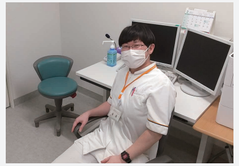
4〜5年目・在宅委員会に加入

薬局長に就任し、地域薬局を自分で作る立場に。医師や多職種、地域とかかわりながら在宅医療への取り組みを開始。在宅委員会に加入し、最前線で働くメンバーから学ぶことができました。



6〜7年目・がん領域の専門薬剤師を目指す

北大前店へ異動。がんや高度医療に対する知識不足を痛感し、勉強を開始。自己研鑽のため、社内外の勉強会などに参加、がん領域の専門薬剤師を目指す。



8〜9年目・病院研修

病院との連携を強化。循環器カンファレンスなどへの参加から興味を持ち、「心不全療養指導士」を取得。さらに「外来がん治療専門薬剤師」を目指し病院研修へ参加。



10年目・「外来がん治療専門薬剤師」を取得

病院研修を経て、外来がん治療専門薬剤師（BPACC）を取得。北大店では、専門医療機関・地域の他薬局との連携など「専門医療機関連携薬局」取得に向けた取り組みも進めています。



11年目・エリアブロック長に就任

北大店を含め、10店舗を担当。本部の方針や意向を伝えるだけではなく、現場の声を傾聴し、より広い視点で地域における薬局づくりに取り組んでいます。

TOPICS



会社のキャンプサークル!

北海道は雄大な景観が魅力のキャンプ王国。個人的には秋キャンプが好きですね。近頃は後輩が準備をしてくれるので、もっぱら「飲み係」です!

FEATURED REGISTERED DIETITIAN　管理栄養士インタビュー



身近な「地域薬局」
だからこそ、
管理栄養士の専門性を
生かして貢献したい。

なの花薬局 北大店　管理栄養士
菅原 由季　Yuuki Sugawara
2018年入社

食事の悩みや不安を抱えていても、どこに相談してよいのかわからず、意思表示ができる場所は少ないと感じています。「地域薬局」であるなの花薬局は、患者さまや地域の皆様に身近で、健康についての不安や疑問を気軽に相談できる場所。皆様の健康的な生活に貢献できるよう、一人ひとりに寄り添った栄養指導を心がけています。血糖値や中性脂肪の検査数値をはじめ、減量、食事の栄養バランスなど日頃気になっていることを、幅広い層の方に相談いただけるのは嬉しいです。また、薬剤師と連携し、食事療法の必要な患者さまには、個々に合わせた栄養指導を行っています。患者さまと会話を重ね、服用しているお薬を考慮しながら栄養指導を行った結果、検査数値が改善したり、お薬を減らすことができた時は達成感を感じます。「食」は命を支えるものであり、食べる楽しみが患者さまの気持ちを前向きにします。調理が難しい場合は市販品を上手に組み合わせるなど、患者さまの生活環境を理解し、取り組めることを一緒に考えて提案しています。私たち管理栄養士が考案したレシピは、栄養相談で提供したり、店舗内外で情報発信していますが、「今度やってみるね」と言っていただけると嬉しいですね。薬局管理栄養士の存在を多くの人に知ってもらい、なの花薬局が地域の健康ステーションになるよう活動していきたいです。

JOB DESCRIPTION　管理栄養士 業務紹介



店舗での栄養相談

担当エリアの店舗を巡回し、予約に応じて栄養相談・栄養指導を行います。外出や来局が難しい方には電話やメールなど対面以外の需要にも対応。検査数値の確認や食事療法の説明など個々に合わせたアドバイスをします。



薬剤師との連携

店舗内での栄養相談内容の申し送りや、薬剤師が行う医師へのトレーシングレポート提出の際、必要に応じて栄養指導報告書を作成します。医師からの指示に基づき指導した場合も、栄養指導報告書を医師に提出します。



未病・予防に向けたレシピ作成・試作

減塩、カロリーダウンなどカテゴリー別にオリジナルの健康レシピを開発しています。栄養相談時にメニューを提案したり、なの花北海道ではレシピリーフレット「なの花健康ごはん」の作成やクックパッドにレシピを投稿しています。



OTC・健康食品販売の促進

健康食品やサプリメント、治療用特殊食品といった商品の販売促進や、食生活改善指導に健康食品等を活用したアレンジレシピなどを紹介。また、社内のOTC委員会活動で商品知識を高め、店舗へ商品の取り扱いや陳列施策を提案します。



資料作成・配布物の制作

栄養相談で使用する資料を作成したり、未病・予防、健康増進に役立つ店舗配布ツールなどを制作。見る人の興味を喚起し、有益な情報が得られる効果的なツールになるよう工夫を施しています。



健康イベントでのアドバイス・栄養相談

薬剤師や自治体と連携し、地域住民の未病・予防・健康サポートを目的とした「健康フェア・健康相談会」を開催しています。健康測定機器を活用したアドバイスや栄養相談、健康食品の紹介のほか、食や栄養に関する講話なども行います。



薬局長時代の
教育経験や社内外の
研修活動すべてが、
本部で生かされる。

薬局事業本部 薬局教育部　薬剤師
藤井 草太 Sota Fujii
2014年入社

なの花薬局は離職率が低く、店舗見学の際に温かい雰囲気を感じて入社を決めました。関東圏で5店舗を経験、2店舗で薬局長を務め、現在は本部の薬局教育部に所属しています。教育部は薬剤師・医療事務スタッフ・管理栄養士の教育を担う部門で、新入社員研修やPharmacy Basic研修の企画運営、社内教育制度の運営、研修やインターンシップの講師など、本部としてグループ全社の教育・研修に関わります。私が配属になった当時はコロナ禍で、新人研修ではオンラインでいかに同期の繋がりを作るかを課題に、チームビルディング研修を企画運営しました。苦労もありましたが、3日間に渡る研修は無事に終了。その後、現場の教育担当から「今年の新人は例年より仲が良い」と反響をもらった時は嬉しかったですね。この成果は、薬局長時代の経験があったからこそ。当時3年連続で新人薬剤師が配属され、彼らがメキメキと成長した経験や、服薬期間中のフォロー黎明期に薬局長を務めた店舗が実施数全国1位になったこと、また、入社2年目から社内ワーキングチームに参加し、店舗を超えた情報共有や研修コンテンツを考案した経験のすべてが、現在の業務につながっています。薬剤師に求められることは日々変化しています。現場の声を丁寧に拾い上げ、日進月歩で変わる医療・薬学の世界や制度に対し、先回りでアクティブな施策が取れるよう私自身も柔軟にアップデートし、全社に関わる教育に携わっていきたいです。



1年目・地域密着型店舗に配属

都内や神奈川県内の地域密着型・医療モール型店舗に配属。当時は店舗ヘルプに積極的に手を挙げ、とにかく経験を積みました。また、「臨床推論」の外部研修にも参加していました。



4年目・大学病院の門前で薬局長

東日本エリアの社内学会で口頭発表し最優秀に。社外ではNPhA学術大会にてポスター発表。また、社内DI（医薬品情報）チームで、優秀プレアボイド事例を発信するなど、他店舗や本部とつながりを持ち、学びの意識も向上。



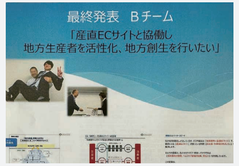
6年目・服薬期間中のフォロー全国1位

3年連続新人薬剤師が配属され、教育の楽しさを知り始めた時期。服薬期間中のフォロー実施数全国1位となり広報誌に掲載されたり、社内研修運営チームのリーダーになり、動画コンテンツを作成、社内配信しました。



8年目・本部勤務・薬局教育部

本部社員として活躍の場を広げるため、読書やeラーニングで、様々な領域について自己研鑽。縁のなかった経済・企業研究に興味を持ち視野を広げるほか、社内の薬剤師向け研修では「クリティカルシンキング」の講師に。



外部の経営塾に参加

社会課題の解決やビジネスモデルの作り方を学ぶため「ソーシャルヘルスケア経営塾」に参加。社を超えた仲間と学び、自身のチームの提案が、最優秀賞を受賞しました。



9年目・認知症分野へ

日本認知症学会に所属。NPhAの認知症認定薬剤師制度の実行委員会として活動し、資格取得に向けた研修運営やワークショップのファシリテーターに。社内や加盟店に向けた研修では講師も担当。



11年目・新入社員研修の運営

4月に入社した薬剤師の新入社員研修の運営を担当し、講師として新入社員のサポートにあたりました。全国の薬剤師が一堂に会する集合研修は、コロナ禍以降、実に6年ぶりの開催となりました。

TOPICS



趣味は、バンドとサウナ!

フェスではテント泊するほど音楽好きで、バンドもやってます。楽器はひと通り触れるので、一人でスタジオにこもって音源を作ったり。反面、サウナは大自然の中へ行き、川で"ととのう"ことも!

日々、最前線で奮闘されている
薬剤師の皆さん、医療事務の皆さん、管理栄養士の皆さん。
皆さんが力を合わせ、命と健康にまっすぐ向き合ってくださる その想いが、
私たちの 日常生活を支えているのだと感じています。

ちかくにいる、という心強さと安心感。
患者さまに寄り添い続ける使命感とあたたかい心。
「まちのあかり」として、
人々の暮らしと健やかな毎日を支え、生きる喜びを ともしてくれる存在 。

私も、誰かの心を ともす存在になれるより頑張ります。
これから医療の道を進む皆さんも、理想とする医療従事者像をめざして…
どうか 力強く未来へ踏み出してください。応援しています!!

福地 桃子

